

平成30年度教員免許状更新講習

時間割・概要

【選択領域1 国語科の教育内容の充実に向けて】

7月21日（土曜日）

《時間割》

時 間	科 目 等
8 : 1 5 ~ 8 : 4 5	受付
8 : 4 5 ~ 8 : 5 5	開講式・オリエンテーション
9 : 0 0 ~ 1 0 : 3 0	国語科における課題解決型学習とその評価方法 (講師 信木 伸一)
1 0 : 4 0 ~ 1 2 : 1 0	「自ら問いを立てる力」を育成するための授業 (講師 塚本 真紀)
1 3 : 1 0 ~ 1 4 : 4 0	自然描写に注目して小説を読む —藤沢周平の作品を例に— (講師 柴 市郎)
1 4 : 5 0 ~ 1 6 : 2 0	読む楽しさを味わう古典文学 (講師 藤沢 毅)
1 6 : 3 0 ~ 1 7 : 2 0	履修認定試験（筆記試験）

《概要》

国語科における課題解決型学習とその評価方法

(講師 信木 伸一)

近年、「主体的に学習に取り組む態度」が学力の三要素の一つに位置づけられ、課題解決型学習（アクティブ・ラーニング）が、学び方の一つとして注目されています。この講座では、こうした学習者の主体的な学びを、国語科の授業で実現するプランについて、参加者のディスカッションを交えながら検討していきます。

「自ら問いを立てる力」を育成するための授業

(講師 塚本 真紀)

文章を読み思考を深めていくためには、文章から理解したことを既有知識・経験に照らし合わせ、これまでの考え方を転換できる（転換する必要がある）可能性に気づくことが重要です。この気づきが「自ら問いを立てる」という行為につながります。講習では、国語の授業の中で「自ら問いを立てる力」をどのように育成していくのかを説明的文章指導の授業をもとに論じます。

自然描写に注目して小説を読むー藤沢周平の作品を例にー

(講師 柴 市郎)

文学作品を読むポイントとして、プロットやテーマ、登場人物の心理あるいはレトリック…様々な要素が存在する。いずれもゆるがせにできないものであるが、えてして、文学作品をヒト（登場人物）中心に読むことになりがちである。そこで、自然描写に注目することにより、ヒトを中心とした〈読み〉からこぼれおちてしまう文学作品が蔵する情報を可視化する試みを、希代の名手・藤沢周平の作品を例におこなう。

読む楽しさを味わう古典文学

(講師 藤沢 毅)

古典というどうしても、意味がわかりづらいから楽しめないという印象が強いのではないのでしょうか。ここでは、現代語訳も併用しながら、読むことの楽しさを味わえる古典テキストの例を挙げたいと思います。評論文と違い、直接書いてないことを想像して読むという楽しさを感じていただきたいと思います。

*教材は当日授業で配付します。